放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：　2026年　10月31日

事業所名　放課後等デイサービス　虹の丘

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい　いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	9	100% 0%
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	9	0	9	100% 0%
	3	生活空間は、こどもに分かりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	9	0	9	100% 0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	9	100% 0%
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	9	100% 0%
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	9	100% 0%
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	9	100% 0%
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	9	100% 0%
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	9	100% 0%
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	9	0	9	100% 0%
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	9	0	9	100% 0%
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している	9	0	9	100% 0%
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容を踏まえながら、こど	9	0	9	100% 0%
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	9	100% 0%
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	9	100% 0%
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	9	100% 0%
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	9	100% 0%
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	9	100% 0%
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	9	100% 0%

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	9	100% 0%
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	9	100% 0%
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	9	100% 0%
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0	9	100% 0%
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	0	9	100% 0%
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	0	9	100% 0%
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	0	9	100% 0%
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	9	100% 0%
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	9	100% 0%
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	9	100% 0%
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	9	100% 0%
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	40	父母の会の活動を支援するとともに、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	0	9	100% 0%
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	9	100% 0%
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	9	100% 0%
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	9	100% 0%
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	9	100% 0%
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0	9	100% 0%
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	9	100% 0%
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	9	100% 0%
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	9	100% 0%
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	9	100% 0%
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0	9	100% 0%
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	9	100% 0%
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	9	100% 0%
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	9	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2026年　10月31日

事業所名放課後等デイサービス　虹の丘

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	支援室の他に学習室やパーテーションの空間があり、遊び内容や個々の様子に合わせて使い分けている。	フランコが設置してあるか、感覚を広げて安全に使えるように見守ることを続けていく。マットを敷き安全対策もしている。また、外の広場も生かして遊びが十分にできるスペースを確保できるよう工夫していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	利用者に合わせて職員を配置し、手厚い支援が提供できるよう体制を整えている。	個別サポート加算の利用者さんが多いため、手厚い支援ができるよう日々職員で話し合い、声を掛け合い、丁寧に支援ができるように心がけている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされて	フラットな作りになっており、学習室には防音材を敷き詰め静かな空間を作る等している。	学習室入口のみ小さな段差があるが、現在は困っていない。今後必要となればスロープをつけるよう工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	活動に合わせて環境を整えている。 毎日掃除をし、清潔な環境を整えている。	安全確認を日々行い、心地よい環境になるよう今後も気をつけていく。また、活動は子どもたちが参加しやすい環境を作ることに努めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	ベットやパーテーションを設置し、子どもが居たい所に行けるように配慮している。	子どもたちの思いを尊重することを心がけている。特に音が苦手なお子さんの居場所を確保できることが課題である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	支援会議や毎日の朝礼を行い、支援の反省や活動内容等を話し合っている。	会議等全員の参加が難しいこともあるため、議事録を見てもらったり、口頭で伝えることに気を付けていく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	保護者等からの意向を把握しその都度対応している。会議などで職員に共有している。	保護者向け評価表を元に、改善が必要なことは職員で話し合い、検討することを続けていく。保護者からの意見に丁寧に対応していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	朝礼や支援後等その都度話し合える時間に気づいた事や相談事ををを伝えあっている。	職員同士話しやすい環境を整えることを課題に気をつけていく。改善内容もこまめに話し合えるようにしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	支援の様子を見に来ていただき、助言頂いたことを元に話し合い業務改善に努めている。	業務改善については、運営指導の機会を使って指導を得ながら改善しているが、3年に１回のため、日々業務改善を意識しながら努めていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	虐待防止研修をはじめ様々な研修に参加したり、質を上げることを大切にしている。	研修には積極的に参加し、研修報告を作成し共有している。常勤職員だけでなく、パート職員も様々な研修に参加を促し、全員で質の向上を目指す。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	支援プログラムを作成し公表している。	定期的に読み返し、より良い支援ができるよう支援プログラムを活かせるように工夫する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	ニーズや課題を分析し職員間で話し合い、作成している。	アセスメントが重要なため、これからも丁寧にアセスメントを行い、放課後等デイサービス計画に反映させていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われてい	支援会議で全職員が意見を出し合い子どもにとって最善の利益を考慮し計画に反映させている。	これからも支援会議のほかにも、気になったことなどを常時話し合い、共通理解を図り、最善に利益を考慮していけるようにする。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	職員間で共有し全職員が必ず確認するようにしている。支援前に計画を読み合わせ支援するように努めている。	計画を目に通すことを忘れず、計画を元に支援を行うことを心がけていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認してい	日々の支援会議で子どもの様子や状態等を共有している。	アセスメントツールを利用するだけでなく、個々に合わせながら適切に図れるよう丁寧に行っていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支	提供すべき支援項目を踏まえ、ねらいや支援内容も具体的に設定している。	各支援項目を深く理解し、それに沿って支援内容もじっくり検討しながら適切に設定するように今後も大切にしてく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	全職員で案を出し話し合いをしながら立案する事で、よりよい活動プログラムを計画している。	内容によって継続していくものと変化していくものを工夫して立案していく。また、子どもたちの姿を丁寧につかみとりながら目的を定めて計画する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	活動目的を5領域に分類し、ランダムに組み込むようにしている。	利用者さんの成長により興味のある活動も日々変わっている。５領域に沿いながら、楽しく参加できるような内容を計画するよう努めている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	子どもの発育に合わせ、全職員で話し合って計画している。	集団の場ではあるが、集団への不安感や過ごし方は１人１人違う。個々の子にとって安心して過ごせる居場所となるよう環境を工夫していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	毎日朝礼を行い、支援の内容や活動・ヒヤリハット等を全職員が確認できるようにしている。	打ち合わせの時間を有効に使い、全職員で意見を出し合うことで、支援の質を高めていきたい。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	その日の出来事や気になった事は、すぐに共有・相談するよう心掛けている。	翌日の朝礼にてより丁寧に行っているため、当日中に共有すべきことと翌日に振り返ることをよく判断していきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	自分で記録するだけでなく、周りの職員と情報共有し合って記録している。	利用者記録の書き方を工夫し、より分かりやすく、伝わりやすい記録の取り方を考えていくと共に、朝礼や会議で検証・改善を行っていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	モニタリングで利用者の状況等共有し、見直しを行っている。	今後も支援会議を重点に置き、個々に応じた成長を見極め、計画作成を丁寧に行いたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	基本の活動を組み合わせ、子どもたちの状況に合わせて支援を行っている。	ガイドラインに目を通す機会を設け、再確認できるようにしていく。子どもたちの日々の変化にも対応して支援をしていくことも続けていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	自分がしたいことを選択したり、今やりたいかやりたくないかなど自己決定する場面を作っている。	自己選択して過ごすことや自己決定することは大人になってからとても重要だと考えて関わっている。今後も意思の決定を尊重して支援する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	管理者兼児童発達支援管理責任者が参加している。	より良い支援ができるよう情報共有を細目に行い、関係機関との連携を大切にしていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	困り事があったときに様々な機関に頼り、連携して支援を行っている。	障がい福祉、保育、教育関係と連携することは多いが、地域の保健、医療とはなかなか難しいため、保健、医療とのつながりを入れて支援を行えるようにする。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	利用の変更、下校時間の確認など小さなことでも情報共有している。	今後も変更等あった際にはすぐに連絡をし、小さなことでも情報共有をしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	就学前の様子を事細かに教えていただき、就学後の支援に活かしている。	見学に来られた際は、利用する児童、保護者が安心して過ごせるように丁寧に対応するよう心がけている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	就学先から情報提供を求められた際は、提供したり、連携等行っている。	卒業後も利用者が安心して過ごせるように丁寧に情報提供をしていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	必要に応じて第三者の方に利用者の様子を見て助言等をして頂いている。	研修には積極的に参加し、研修報告を作成し共有している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	公共施設を利用し地域の方がいる場に出て行っている。	児童館や学童との交流は知らない人と出会う子が苦しい子も多く行えていない。今後も、子どもたちに無理のない範囲で公共施設や公共交通機関を利用する活動を入れていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	児童部会等毎回参加している。	必要な情報を職員に伝え、地域の施設としての心構えができるように努めている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	連絡帳や送迎時だけでなく、子どもの様子・変化等電話やメールを使って共有するようにしている。	お話しした内容を共有し合い、支援の振り返り・改善に繋げることで、子どもたち・保護者の皆様に安心して利用して頂だける居場所でありたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	研修としては行っていないが、個々に相談を受けながら子育てに関する助言を行っている。	丘カフェや外部講師を招いての座談会の場も利用し、より多くの保護者さんのご意見・ご相談を聞き取りたい。
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時細かい所まで丁寧に伝えている。	契約時に関わらず、ご不明な所があれば都度説明する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けている	面談の際に子どもや保護者の意思や意向等丁寧に聞いている。	面談の報告、支援計画の作成を職員全員で行い子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ作成している。支援計画を見ていただき説明し同意を得ている。今後も続けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	支援内容を細かく説明し、同意していただいている。	支援計画で不明な点、改善点などあればご指摘いただいている。今後も子どもや保護者の方の意向等を大切に支援計画の作成をしていきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	面談や丘カフェ等で相談に応じている。	助言等行い、その後の経過をお聞きし最後まで寄り添う事を大切にしている。今後もご家族の方の相談に真摯に対応していきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の	丘カフェを行い、保護者の方が顔を合わせる時間を作っている。	参加されたことがない保護者の方にもお声がけしたり、開催日時を工夫したりすることで、より参加しやすいよう努めている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	トラブルが起きた時にはその状況や解消方法など、すぐにお伝えするようにしている。	職員で話し合い、原因を追究し解決策を考えると共に、トラブルが無いよう努め、安心して通っていただけるようにしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	本社より各保護者に向けて送られている。また、虹の丘独自の「丘新聞」を発行したり、ブログを作成している。	行事の日程やお知らせ事項に限らず、活動の様子も載せる事で、虹の丘での子どもの様子を感じて頂ける内容にしている。

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	保管庫に入れ、十分に注意している。	不要になった個人情報はすぐに処理する。今後も個人情報には十分に気を付けていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	絵や文字・言葉など個々に合わせてより伝わりやすい伝達方法に配慮している。	子どもたちの思いに寄り添うことを大切にすることで、表情や発する言葉から気持ちを汲み取ろうと努力する事を全職員が大切にしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	ボランティアさんを招いての活動をしたり、地域の活動に参加したりする事で、地域との繋がりを大切にしている。	地域との交流を積極的に取り入れる等、引き続き機会を設けていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	マニュアルは施設内の壁に貼る等誰が見ても情報を得やすいようにしている。定期的に訓練を実施している。	年に一度マニュアルを見直す事で、常に新しい対応ができるように努めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	業務継続計画を策定する際は、細かな情報を集めている。	命を守る訓練や手洗い等しているが、災害を想定した訓練の強化に努めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	面談の際にお聞きし、服薬や予防接種等の情報を個人ファイルに挟んでいつでも確認出来るようにしている。	てんかん発作時や、アナフィラキシーショック時の対応など定期的に職員間で確認している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	保護者から必要な対応について細かに教えていただき全職員で共有している。アレルギーチャートに必ず目を通している。	異動職員や新人職員含め、どの職員も同じ対応ができるよう徹底する。保護者との面談も行い、より安心して利用して頂けるよう努めていきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	日々の業務で危険個所をチェックし、必要に応じて修理等している。	安全には十分配慮し、危険なものがあれば移動するなどしている。利用者が安心して過ごせるように安全第一に支援をしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	緊急時の対応など事前に保護者に周知している。	緊急時にはすぐに連絡が取れるように体制は整えている。定期的に保護者の方に周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	毎日記入し、改善策を考えている。事例によっては出勤者以外にも伝わるようにしている。	ヒヤリハットを全体的に振り返る事で、危険性が高い時間帯や場面を掴み、今後の支援につなげる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	定期的に虐待に関する研修を全職員が受講している。	日々の支援で虐待が生じないように職員間で意見を出し合っている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	契約時に身体拘束についての説明をし、同意書にサインしてもらっている。	身体拘束について全職員が共通理解をし、支援をしている。